

令和3年度全国高等学校教育改革研究協議会

鹿児島県発表資料



鹿児島県
教育庁
高校教育課

- 鹿児島県の現状
- スクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定状況
- 特色化・魅力化に向けた取組等

2023
{かごしま}
総文



令和3年11月25日(木)



鹿児島県公立高等学校の現状



学校数(R3)

○学校数・・・68校(うち7校は市立)
 全日制・・・・・・・・・・66校
 全日制・定時制併設・・・・・・ 1校
 全日制・定時制・通信制併設・・ 1校

【市立高校(7校:全日制)】
 鹿児島市3校,
 指宿市・出水市・霧島市・鹿屋市各1校

設置学科(全日制・定時制)

学科	学校数	(比率)	参考R2 全国比率
普通科	40	(35.1%)	56.1%
農業科	10	(8.8%)	4.6%
工業科	13	(11.4%)	7.9%
商業科	23	(20.2%)	9.1%
水産科	1	(0.9%)	0.6%
家庭科	7	(6.1%)	4.1%
看護科	2	(1.8%)	1.5%
情報科	0	(0.0%)	0.4%
福祉科	3	(2.6%)	1.5%
その他	10	(8.8%)	8.6%
総合学科	5	(4.4%)	5.7%

専門学科

学科	小学科
農業科 (21学科)	農業科, 農業経営科, 農業科学科, 園芸工学科, 園芸工学・農業経済科, 園芸科, 農林技術科, 環境園芸科, 畜産動物学科, 畜産食農科, 畜産科, 生物生産科, 生物工学科, 農業機械科, 緑地工学科, 農業工学科, 農林環境科, 食農プロデュース科, 食品技術科, 生活科, 食と生活科
工業科 (13学科)	機械科, 電子機械科, 機械電気科, 機械電子科, 電気(電気技術)科, 電子科, 情報技術科, 建築科, 土木(建設技術)科, 工業化学科, インテリア科, 工業Ⅰ類, 工業Ⅱ類
商業科 (9学科)	商業科, 情報処理科, 情報ビジネス科, ビジネス情報科, 国際経済科, 情報会計科, 総合ビジネス科, ビジネス会計科, オフィス情報科
水産科 (3学科)	海洋科, 情報通信科, 食品工学科
家庭科 (5学科)	家政科, 食物科, 生活科学科, 生活デザイン科, 生活文化科
看護科 (1学科)	衛生看護科
福祉科 (2学科)	福祉科, 生活福祉科
その他 (9学科)	理数科, 情報科学科, 文理科学科, 音楽科, 美術科, 体育科, 生活情報, 文理学科, スポーツ健康学科

鹿児島県公立高等学校の現状

○学区別在籍生徒数(平成13年度と令和3年度の比較)

在籍生徒数

○R3在籍生徒数

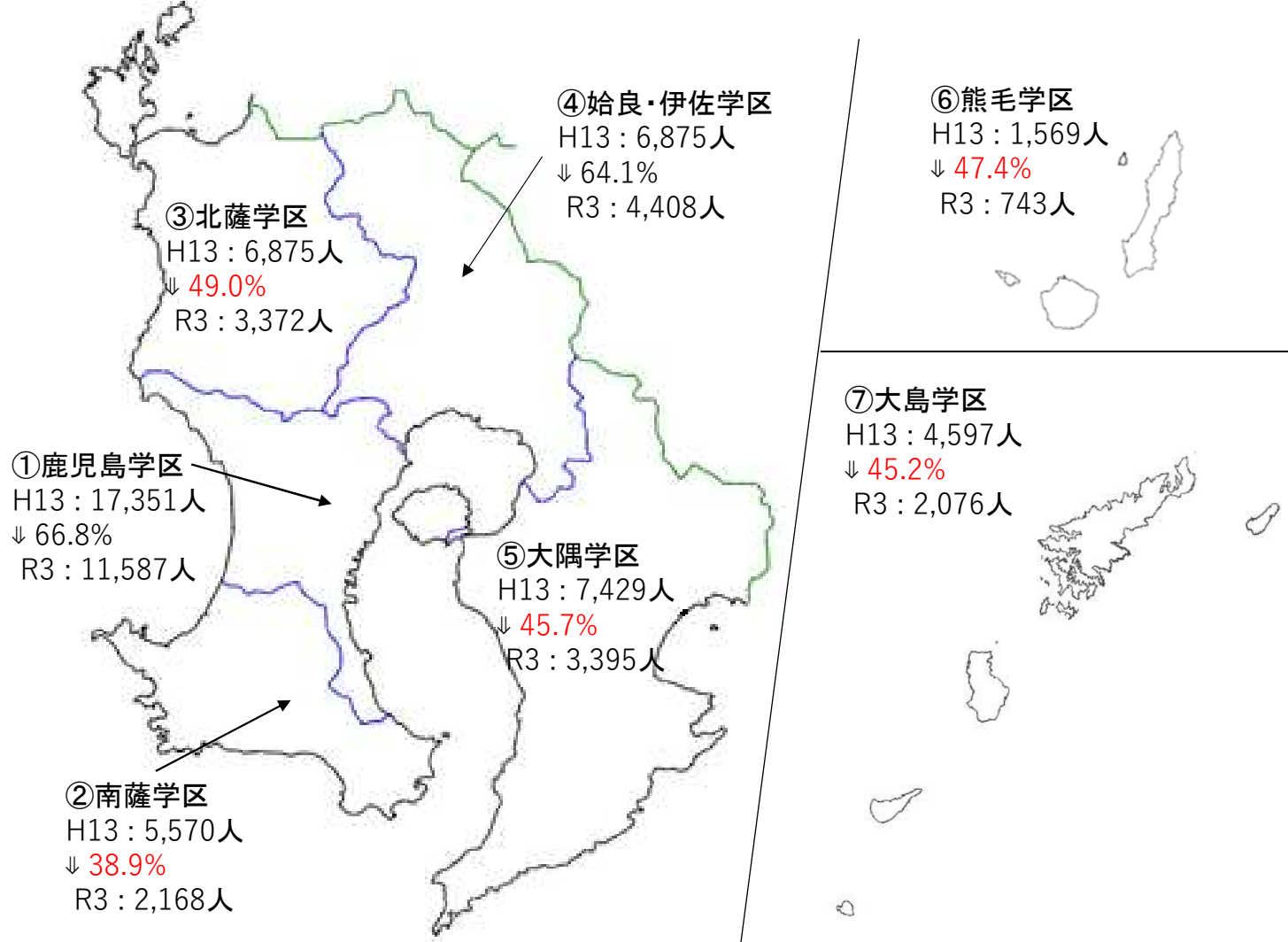
全日制・・・27,596人
 定時制・・・ 153人
 合計・・・27,749人

(参考 H13)

全日制・・・49,885人
 定時制・・・ 381人
 合計・・・50,266人

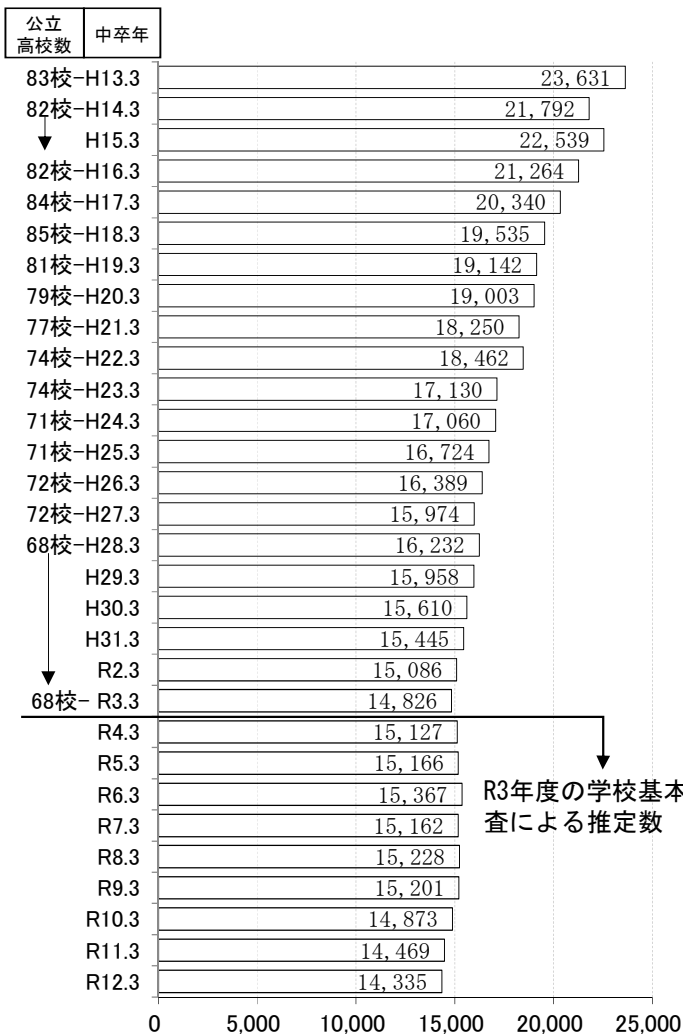
○学科別在籍生徒数

学科別	生徒数(比率)	参考R2 全国比率
普通科	14,079 (50.7%)	73.1%
農業科	1,213 (4.4%)	2.4%
工業科	4,481 (16.1%)	7.5%
商業科	4,324 (15.6%)	5.8%
水産科	296 (1.1%)	0.3%
家庭科	1,184 (4.3%)	1.2%
看護科	96 (0.3%)	0.4%
情報科	(0.0%)	0.1%
福祉科	113 (0.4%)	0.3%
その他	1,433 (5.2%)	3.5%
総合学科	530 (1.9%)	5.5%

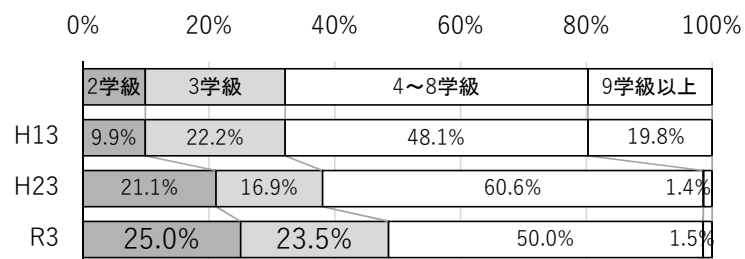


鹿児島県公立高等学校の現状

中学校卒業（予定）者数の推移



学校規模別学校数割合(募集定員策定時)

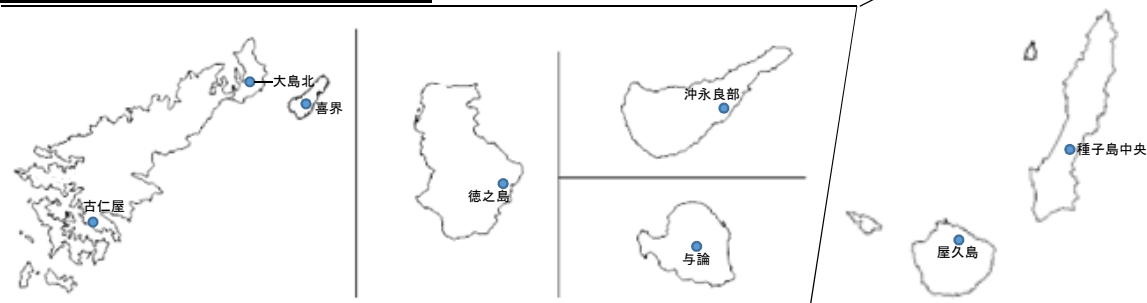


R3小規模校学校規模別入学充足率

	学校数	充足率平均	0.5以下
1学年2学級	17校	0.41	14校
1学年3学級	16校	0.60	5校

今後、生徒数の減少により...

1学年1学級規模の学校が増加の見込み



スクール・ミッション, スクール・ポリシー策定について

これまでの状況

各学校において「学校教育目標」、「学校経営方針」を定め、HPや学校要覧、パンフレット、入学者選抜募集要項などに掲載

〔参考:鹿児島県立楠隼高等学校〕

○ パンフレットより

本校では、世界を見通すリーダーを育成するための教育、さらに6年間(または3年間)で学力を着実に身につけ、探究心を高め、様々な分野に対する学習意欲を喚起し、日本・世界を俯瞰する視点をもった人材を育てます。

ディプロマ・ポリシー?

カリキュラム・ポリシー?

- 7STYLE① シリーズ宇宙学
- 7STYLE② 中高7限授業による学習指導
- 7STYLE③ ことばの教育や外国語教育
- 7STYLE④ 魅力的な体験活動
- 7STYLE⑤ 産業界や内外大学との連携
- 7STYLE⑥ 寮での充実した学習環境
- 7STYLE⑦ 仲間とともに送る寮生活

アドミッション・ポリシー?

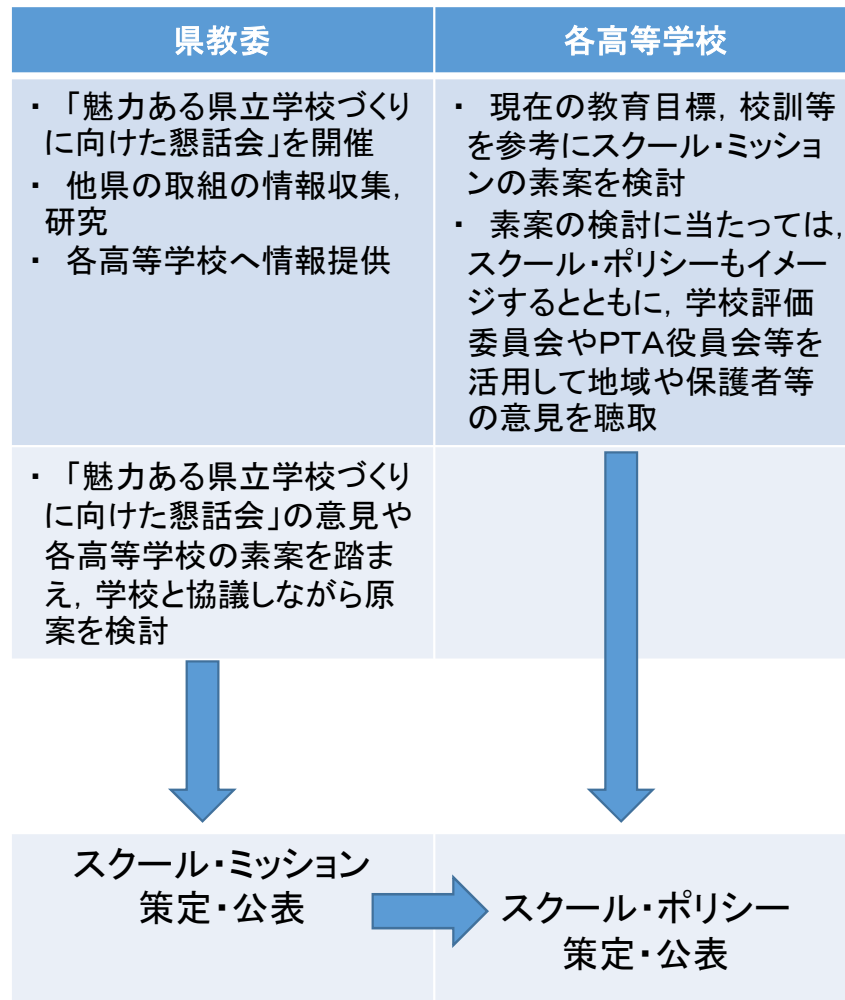
○ 入学者選抜募集要項より

〔1〕 求める生徒像

本校は県内外から生徒を募集する全寮制の学校であり、豊かな人間性ととともに世界的な視野をもったリーダーを育成するために、知・徳・体を備えた全人教育を行っていくことから、次のような生徒の入学を求める。

- 1 学校と家庭での生活習慣と学習習慣を身に付けており、高い志をもち学業に継続して努力することができる生徒
- 2 様々なことに興味・関心を持ち、新しいことに挑戦する創造的な姿勢がある生徒
- 3 国際社会の中で、積極的に他者とコミュニケーションを図る意欲がある生徒
- 4 寮を含めた集団生活の中で、他者の立場や意見を理解でき、他者のために尽くそうとする姿勢のある生徒

策定に向けて



高等学校の特色化・魅力化に向けた取組等

令和3年度の取組1

魅力ある県立学校づくりに向けた懇話会の開催

1 設置の目的

少子高齢化や人口減少等で社会構造が変化する中、魅力ある高等学校教育を実現するための方策を検討するため

2 懇話会委員

有識者(大学教授等)・・・5人

民間企業関係者・・・2人

学校関係者・・・3人(公立高, 公立中, 私立高)

PTA関係者・・・1人

3 会議の日程・議題

第1回: 令和3年8月3日(火)午後1時30分～午後3時20分

- ・ 懇話会のテーマ, 今後の進め方の説明
- ・ 国の高校教育改革について
- ・ 本県県立高校の現状等について

第2回: 令和3年10月12日(火)午前10時～正午

- ・ 第1回の協議・意見交換確認
- ・ 魅力ある高校について
- ・ 中山間地域や離島にある高校の魅力化

※ 第3回以降は、開催日未定(全5回を予定)

ホームページアドレス

<https://www.pref.kagoshima.jp/ba05/r03konwakai.html>



第1回懇話会での意見概要

- 離島や中山間地域の地元で頑張りたいという生徒にとって、高校の選択肢は少ない。そこで学ぼうとする生徒に、魅力や意欲を持たせるために、ICTを活用するのはよい取組。一方で、他の地域では、多様な学びに対応できるよう、いろいろな高校があった方がいい。
- 国のオンライン授業の受講者が40人以下という制限はない方がいい。
- 今の公立高校に魅力がないか、といえばそうではない。それぞれの高校で特色がある取組をしているが、中学生にも届くようにしっかりと発信されているか、が問題。
- 高校の魅力化を考えるには、まず、中学生や保護者がどのような高校を望んでいるか、を把握する必要はないか。今後アンケート等もしてみてもどうか。
- 保護者の理想としては、いろいろな選択肢の中から、子供が将来の夢から高校・学科を選ぶことだが、現実的には、中学段階で夢を見つけきれず、高校で自分の進路を考える子供も多い。高校に特色を持たせるのは大事だが、特色が際立ちすぎても子供たちは迷うのではないか。ゆっくりと将来を考えるための「普通」の高校があってもいい。
- 公立高校の推薦入試では、推薦する中学校側の基準が厳しく、ほとんど出願がない学校が多い。普通科と専門学科でやり方をかえるとか、高校独自のやり方を検討する等の方法があってもよいのではないか。

高等学校の特色化・魅力化に向けた取組等

第2回懇話会での意見概要

① 魅力ある高校について

- 高校の魅力は、生徒、保護者、地域の方にとって異なると思うが、総合的に考えると、「自分が卒業したことを誇りに思える学校」が魅力ある学校といえるのではないか。
- 地域に根ざした高校が魅力ある高校だと思う。
- 生徒が、「将来、自分は、社会に受け入れられ社会に参画できる」という自信を育てることができる高校が魅力ある高校。
- 現在の県立高校は充足率が低い学校が多いと聞いているが、魅力がないわけではない。少子高齢化が進む中では、魅力化しても必ずしも充足率が上がるとは限らない。地域の高校については、時代背景や環境など含め、高校はどうあるべきかということを、生徒・親・教師・地域で語ることが魅力につながるのではないか。
- 魅力ある高校とは、生徒が関心を持つ学校、生徒が自分の居場所を感じられる、安心できる場所と考える。
- 高校を卒業した後の出口がしっかりと中学生・保護者に見える学校、楽しさ・部活動など条件がある程度揃っている学校、高校生が日々生き生きと学校生活を送っている姿が地域の人々から見える学校、将来の地域の担い手としての学びが実践されている学校が魅力ある学校と考えている。
- 先生が、自らの職場として誇りをもてる学校が魅力ある学校ではないか。

② 中山間地域や離島にある高校の魅力化

- 地方は移住に力を入れているが、ICT環境が整備されていないと親の選択肢から外れる。中山間地域や離島にある高校の魅力化には、遠隔授業などICTを活用した取組を早急にする必要がある。
- 遠隔授業を進めていくためには、まずは、生徒用機器を1人1台の整備を進めた上で、先生が、デジタル技術をどう取り入れていくのかが必要。ICTの活用には、民間企業の力を借りて活用を進めるべき。
- 離島の小規模校では、遠隔授業での対応しかできないため、離島優先でICTを整備するやり方もある。
- 地方創生の核として、地域に学校を残していく価値を考えていかなければならない。
- 通学の利便性を考えたとき、都市部はともかく、地方においては通学に対する何らかの支援が必要ではないか。
- 中学生のアンケートで、通学の利便性が上位に来ていた。対面での学びは、オンラインが進んでも、必要である。通学手段については、例えば買い物弱者や過疎地の交通サービス向上のために自治体が巡回バスを出したりするなどの支援に乗じて、合わせ技で何かできないか。他の地域課題と絡めて議論が進めばという感じである。
- これからの高校教育においては、教科指導だけではなく、地域連携などの新たなサービスが求められることになる。新しい教育サービスを進めていただければ、ありがたい。

高等学校の特色化・魅力化に向けた取組等

令和3年度の取組 2

「かごしまで学ぶ」県立高校PR事業

目的 本県県立高校の魅力を、県内外の中学生にもっと知ってほしい。

「かごしまで学ぶ」生徒が増え、卒業後も鹿児島県の発展に寄与する人材を全国に配置することができる。

事業1 広報について学び、全学校で共通理解する

■ 広報アドバイザーによる研修委託

オンライン研修 + YouTube動画作成



× 3回



× 3本

現在準備中



※ 各学校で作成したR5向けパンフのPDFデータを集約し、県教委HPに一覧掲載する(R4. 4以降)

事業2 広報媒体をつくり、PRする

■ 県教委パンフレット等制作



仮称「かごしまで学ぶ」未来教育
公立高等学校紹介パンフレット

オンライン研修会概要

1 講師 公益財団法人日本広報協会 広報アドバイザー

2 オンライン研修内容・項目

第1回 令和3年8月2日(月)

(1) 内容 基礎知識・接待編(2時間)

(2) 項目 「PR」、「伝える」とは？
ニーズと成果の把握
接遇力の高め方
質疑応答

約98%の学校が
「参考になった」と回答

第2回 令和3年10月11日(月)

(1) 内容 知りたい内容編(2時間)

(2) 項目 伝えたいこと<知りたいこと目線
当たり前なことの露出
スマホへの対応
質疑応答

第3回 令和3年11月25日(木)

(1) 内容 伝えるデザインの力編(2時間)

(2) 項目 デザインの力
効果的なデザイン
今年度の学校パンフレット講評
質疑応答

高等学校の特色化・魅力化に向けた取組等

今後の取組について（中山間地域や離島の学びを確保するため）

遠隔授業配信センター 中山間地域・離島の高校への授業・補習配信

③中山間地域や離島における
受講者上限40人の緩和

①遠隔授業の
環境整備経費

A 学校間連携

②学校間移動
の経費

B 学校間連携が
困難な学校

教員の兼務など

A 学校間連携(主に中山間地域の高校)

- 距離の近い学校を「一つの学校」とみなす
- 現在活用している校舎はそのまま活用
- 教員や生徒が学校間を移動

B 学校間連携が困難な学校(主に離島の高校)

- 生徒はオンライン配信授業を受講

懸念される事項

- ① 1人1台の学習者用PC配備
- ② 学校行事や部活動など、生徒移動のための交通手段確保
- ③ 遠隔授業における受講者数上限40人

2023 かがしま総文

2023 KAGOSHIMA soubun



御清聴，ありがとうございました。